

視聴覚教育

NO 71

発行日

56.3.2

発行 岡崎市AVL

編集

広報委員会

県芸術文化選奨文化賞を受賞

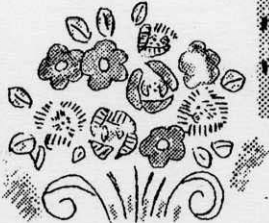
現職教育視聴覚部

芸術文化の各分野で優れた業績をあげた個人や団体に与えられる愛知県芸術文化選奨の「文化賞」に現職教育委員会視聴覚部が選ばれた。

ハミリ教材映画の製作からスタートし、昭和四十八年からは、

ITVレ(閉回路テレビ放送)のビデオ教材製作にも手がけ、組織的・計画的な活動は、数々の優れた作品を生み出し、教育文化の振興に貢献したことが認められ、今回の受賞となった。表彰式は去る二月二十一日、名古屋市の愛知会館で行われた。

岡崎市においては、過去三団体が奨励賞を受賞しているが、文化賞を受賞したのは視聴覚部が初めてである。なお、受賞報告会を来る三月七日(土)に商工会議所で行う予定である。



「とろろづぶり」(ビデオ)が優秀賞

今年度の県自作視聴覚教材コンクールの発表会が、去る二月十七日に県教育センターで開かれた。岡崎から応募のあった十作品のうち七作品が入賞した。

- 優秀賞「とろろづぶり」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 優良賞「事故をいせぐ」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 優良賞「老人福祉と私たち」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 佳作「パンを作る人」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 佳作「学校の近くのようす」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 佳作「給食のできるまで」(ビデオ) ライブラリー 社会科部
- 佳作「鳥のわたり」(スライド) 製作中 明保 俊通

「ハミリ映画」和ろろとく」が完成

手づくりによる和ろろとくの製造過程を描いた

ながら、技術に生きたる工氏の姿を描く作品。撮影・編集は、近藤卓先生が中心になり、ナレーターは、加藤洋子先生があたった。(十四分)



岡崎の視聴覚教育の三年

先年度に引き続き、各先生方のそれぞれの分野での活躍が実り、現職教育視聴覚部にとって収穫の多い年であった。

先ず、三島小の文部大臣賞受賞、美川中の放送教育研究発表等放送を学習で生かす方法の研究は、多くの成果が得られた。今後この方面の研究を継承し、実績を重ねたいものである。

次に、ビデオカメラによる校内放送は、大樹寺小の発表を契機に各小学校でカラービデオカメラを購入する機運を与え、その効果を十分に利用する方向に進んでいるのは喜ばしい。教育的な利用や児童の自主的活動の場を研究する分野として楽しみがある。

自作ビデオの活動は、本年度も全国入選二本を初め、県芸術文化選奨の受賞等、その製作技術の高さが認められた。本年より毎年五本を現職教育社会部と協力して製作していく予定で、現場での教育的効果も期待されている。

今年度、はじめて手がけたことに、マナライザの研究がある。来年度以降、機器の導入に合わせ、視聴覚室の利用とともに研究していきたい。さらに、岡崎の視聴覚教育の進展のため、今後も一層の努力をしていきたい。(A・K記)



たより

豪華版「視聴覚教育誌」の発刊

— 記念ビデオも完成 —

昨年、視聴覚ライブラリーが文部大臣賞を受賞したのを記念して、「視聴覚教育誌」を三月中旬発行します。二四一枚の写真(カラーを含む)をのせ、ライブラリーの歩み、各学校の姿をいながらにして把握できるような編集しました。表紙はクロス張り金文字入り、しかもケーヌ入りと豪華版です。

希望者には、特別価格三三〇円でおわけします。また記念ビデオ「岡崎の視聴覚教育」も近く完成します。

月報「視聴覚教育」の発行を終えて

今年度、俳句の会で見せたので、日本のびを借りたいのだが、急に言われてびっくりしたが、よく聞いてみると月報の新購入フィルムを見ての依頼であった。思わぬ人からの依頼であったのがうれしかった。読者の広がりがある。これからも、題字に小さわしい編集、発行で広報活動を続けたい。なお、ケリ切りは筒井善光先生(南中)、大岡冬彦先生(城北中)、岡本彦幸先生(六南小)にお願いした。三島が様でした。(広報委)